

第11章 ドイツ・オランダ国境地域における Interreg —ユーロリージョン・マースライン（EMR）の試み—

九州産業大学

齋藤實男

序

本章は、次のような、EU 内の格差是正と協調いう目標設定とその目標達成のための資金調達と使用の主体を巡るガバナンスに関わる問題意識をもって、SF(Structural Fund<構造基金>)とその SF 中の CI (Community Initiative<共同体イニシアティブ>) を報告し、さらにその中の INTERREG III における EMR(Euregio Meuse<=Maas>-Rhine<ユーロリージョン・マースライン>)の地域間交流活性化政策、特に INTERREG IIIA について、現状の一部を報告するものである。ガバナンスに関わる問題意識とは、具体的には、地域活性化政策・地域間格差是正・地域コミュニティ復活のための越境地域協力基金、INTERREG IIIA は、どのように集められ、予算決定され、その用途のプロジェクトは、誰によって、願い出られ、どのように選定されたのか、といものである。それは、民主主義的な手続きを経たものか？このプロジェクトは、この基金、補助金が無くなる 2006 年以降、誰に、どのように、どんな目論見をもって、継続されてゆくのか？このプロジェクトは、EMR(3 国共通のマネジメント機関)の力(タテの歴史的にコピーされた meme の歴史的にコピー・実体) ⇄ 関係(ヨコのネットワーク・代謝・形態) ⇄ 進化(力と要素の相互作用による meme の変化・発展)にどのような影響を及ぼすのか¹？

¹力⇄関係⇄進化の視軸から、EU とアジアユニオン (ASU) の「力」の相違については、浜矩子氏の指摘 (2003 年 5 月 29 日講演) に沿って、作成した下表を参照されたい(浜矩子氏の指摘を齋藤が総括)。

表(1)-1 EU 統合と ASU 統合の相違点[浜矩子]

=====			
牽引力・進捗	国家間格差	アイデンティティ<文化/宗教>	
EU	政治・計画	水平→垂直	基督教
ASU	経済・なし崩し	垂直→水平	基/回/仏/ヒン/道/儒/神/シヤ/多神
=====EU(European Union) ASU(ASian Union)			

つまり、EU の統合は、EU:政治主導—計画的—水平から垂直、アジア:経済主導—深化・なし崩し—垂直から水平(雁行形態+リープフロッギング)、政治・計画・水平(1:5 <GDP/人の格差>→垂直・<基督>)ASU(ASian Union<AU は African Union>:経済・なし崩し・垂直(1:50<ミューンマー:日本の GDP/人の格差>→水平[浜矩子]・<基・回・仏・ヒン・道・儒・神・シヤ・多>)、環境保全活動の高位平準化・エコデザインの普及(エコテク素材/機能美/芸術性/空間配置等)・一種の文明化作用による Power Distance(権力格差)解消(妥協のための垂直的主奴の力関係・水平的利害関係の一致)などの国際的なエリア・地帯の相違を配慮しなければならない。このような相違について、経営面でも、日と EU にも、日本 3 高 (p.37 販売管理費、粗利益

率,在庫回転) 欧米3低(相原修),顧客側許容価値の相違など配慮すべきである。ここで,地帯とは,経済社会ブロックを指し,地域とは,ある国内部のローカルなエリアを指すことにしておきたい。

その EMR の「隣接越境地域」プログラム INTERREG IIIA というイニシアティブ(協議)・プロジェクトは,基本的に,EUREGIO²=EMR の自主管理になっており,その EU 本部のチェック機構が働いているのではないか?

改めて,本章は,ユーロリージョン MAAS-RHEIN の調査研究に関するものである。ユーロリージョン MAAS-RHEIN という,AMEL (Aachen-Maastricht-Eupen-Liege) 地域を結び,この地域を活性化するための 11 分野,つまり経済・文化・言語・観光・スポーツ・災害・青少年・教育・技術・健康・環境の 11 分野の相互交流を行う運動体の調査研究に関わる報告である。

² EUREGIO:「地方団体の協力機関」又はプログラム.EU に 10 機関以上.1950 年代に REGIO というプログラム始動.1958 年には,次の独・蘭地域,つまりフランス帝国に編入されたことのある,ドイツ<NRW(Nordrhein -Westfalen)州+Niedersachsen 州>+オランダ<ヘルダ-Gelderland 県+Overijssel 県>の 100 余りの地方団体の間で,協力機関が結成された。

INTERREG III (2000-2006):①均衡発展,②経済社会統合,重点は,辺境や新加盟の東欧国境の①②.予算 48.8 億 ECU.

INTERREG IIIA (Cross Border Cooperation) 「隣接地域間の越境協力,共通の開発戦略」

(予算 49 億 ECU の 50-80%) 「現在 41 のプロジェクトが進行中」

INTERREG IIIB (Transnational Cooperation) 「国,地方,地域の関係機関間の協力」バナ地域のような統合.(予算の 14-44%)

INTERREG IIIC (Interregional Cooperation) 「情報交換ネットワーク,地域開発の効率性向上」(予算の 6%)

INTERREG II (1994-1999):経済発展・静かな観光を目指して,①越境地域形成,②生活の質向上.予算 35 億 ECU.

INTERREG IIA(1994-1999) 「越境協力」

INTERREG IIB(1994-1999) 「エネルギーネットワークの形成」

INTERREG IIC(1997-1999) 「水資源の地域協力」

INTERREG II (1994-1999):経済発展・静かな観光を目指して,①越境地域形成,②生活の質向上.予算 35 億 ECU.

INTERREG I (1990-1993):コミュニティづくりのための国境地域支援.予算 7 億 ECU ([Sen・S-1]p.207) .

「19 B,D,NL」 「22 独+ルクセンブルク同一自然資源 【・都市,農村開発:社会,文化,教育,観光施設のネットワーク,経済開発:SMEs 支援・観光と文化向上:公社機関の協力・労働マーケット創出と職業訓練・自然環境保護】」 「23 D+L」 「24 仏+独 同一文化遺産と言語 【・地域競争力の強化:越境空間計画,観光開発,技術移転,SMEs 促進・越境雇用マーケット創出・自然資源の保護・社会,文化統合】」 「25 独+仏+スイス 地理的,文化的アイデンティティの共有,長い越境関係【・人と機関の越境協力・持続可能な空間開発・経済統合と労働マーケット創出・観光と文化の促進】」 ……千(2004)207 頁-217 頁参照,ちなみに「観光(は)ヨーロッパの GNP の 5.5%,900 万人の雇用」(千(2004)209 頁)

それは、この AMEL 地域の国境を越えた歴史的な経済的市場形成・相互交流を紐解きながら、上の 11 分野の内実、Interreg IIIA (2000—2006 年) の資金の流れと組織編成、産官学コラボレーションを調査し、国境を越えた地域形成、地域間交流、歴史と社会文化、国家とそれを越えた民衆交易、Local-Local の交流のガバナンスの在り方、その意義について、明らかにしようとするものである。ちなみに、この解明は、地球環境問題や技術分野での産官学コラボレーション、交流の実態調査内容が、どのように、日本と韓国・台湾・中国の国境地域、特に福岡市・北九州市—大連・上海—釜山等の「環黄海経済圏 (小川雄平)」におけるそれらの今後の民際・地域際交流の活性化のためのヒント、その交流のガバナンスのヒントになりえるものである。

例えば、技術分野の内の INTERREG IIIA (170 万ユーロ、3 年) というプログラムのライフサイエンス分野の協働計画(事務局とコーディネータはアーヘン AGIT)については、その目的は、バイオ製品の国際マーケティング展開と FDI (Foreign Direct Investment) を含む国外からの投資の誘発にあり、その参加機関は、300 超企業+130 超研究グループ+大学 (アーヘン工科大学、マーストリヒト大学、リエージュ大学の TLO [Technology Licensing Organization]) + 地域産業支援機関 (オランダ LIOF+東ベルギー WFG+アーヘン AGIT+マーストリヒト市) + イニシアティブ (ライフテックアーヘンユーリッヒ、バイオリエージュ、リンブルフのグループ) 等である。
(http://www.nrw.co.jp/nrw_news/nrwnewsno.8.htm[2004/02/26] 資料提供: 東京 NRW 事務所八木橋氏[2004/02/26])

本章は、このような問題意識をもって、われわれの科研費研究の内の EMR について述べるものである。特に具体例を、アーヘン⇄リエージュ⇄マーストリヒトの産・学研究・連携センターの組織的なネットワークやライフサイエンスにとって、説明せんとするものである。

1 EMR の概要

EMR は、どこに位置し、どのような組織構造で編成されているのか? 本節では、その概略を紹介し、INTERREG IIIA を巡る、序で述べた問題を解く、基礎知識に代えたい。

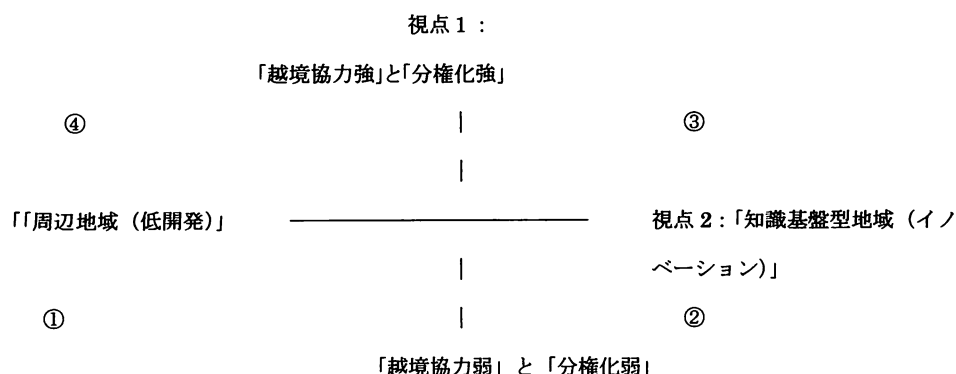
1.1 EMR ガバナンス

EU の地域政策ガバナンスについて、分類と予算編成を中心に論じてみたい。「ヨーロッパの魅力である地域の多様性を尊重しながら、民主的な「地域のヨーロッパ」を確立してゆくためにも、EU、国民国家、地域の 3 レベルによるマルチレベル・ガバナンスが必要である… Interreg は…「地域のヨーロッパ」を形成する上で有用な手段になっている。」(進化経済(長岡: 2005)400 頁)

まず、ガバナンスのタイプについて、EMR は、次の若森氏のタイプ分類の③に当たる。すなわち、ガバナンスを次の視点 1 と視点 2 の組合わせで分類、つまり視点 1: 越境協力の強弱と分権化の強弱の正の相関、視点 2: 「周辺地域 (低開発)」か「知識基盤型地域 (イノベーション)」かによってタイプ分類したところの、「①集権的な国の低開発な地域型」「②集権的な国の工業地域型」「③分権化の進んだ国の知識基盤型地域型」「④分権化の進ん

だ国の低開発地域型」の内のタイプ③に当たる。

図 1-1 地域政策ガバナンスのタイプ分類



出所：進化経済(若森：2005)388 頁の文章を図表示。

1.2 カネとガバナンス

INTERREG III は、EU の構造政策運営の第 3 期（2000—06 年）の CIs(Community Initiatives<共同体イニシアティブ（協議）＝プロジェクト>）の、次の 4 項目の内の一つである。4 項目とは「(1) INTERREG III <48.8 億ユーロ>、(2)Leader<20.2 億ユーロ>、(3)Equal<28.5 億ユーロ>、(4)Urban<7 億ユーロ>」（辻(2003)156 頁）である。これらの第 3 期の構造政策には、次の 3 つの目的がある。

「目的 1—開発の後れた地域（region）の開発および構造調整の促進。目的 2—構造的諸問題に直面する地域（areas）の経済的社会的転換の支援。目的 3—教育、職業訓練、雇用に関する国の政策および制度の改造ならびに近代化の支援。」（辻(2003)151 頁）＋「特別スキーム（目的 1 以外の地域での漁業の構造改革：F I F G）」目的 1 には農村開発も含むが、構造基金として「目的 1 以外の諸地域…にも資金を提供」（辻(2003)154 頁）。「農村開発事業は構造基金か共通農業政策（CAP）のいずれかの資金援助によって、EU 全域で実施される。」（辻(2003)151 頁）

EU の地域政策の目的については、国のそれと共通するもの、つまり次の a)-d) と EU 独自のその次の f)-k) がある。国のそれと共通するものには、「a) 公平と公正、b) 所得および生産の増大、c) インフレの抑制と経済成長の促進、d) 都市問題の緩和」がある（辻 14 頁—15 頁）。EU 独自の目的には「(f) 「利害関係」論、(g) 「財政トランスファー」論、(h) 「政策調整」論<(a) EU の地域政策と、EU の他の諸政策との調整、(b) EU の地域政策活動と、加盟国自身の地域政策との調整、(c) 特に…国境を接する場合の地域政策相互間の調整、(d) EU—加盟国—地域機関—ローカル機関の施策間の調整>、(e) 「経済統合の地域的影響是正」論、(f) 「EU の他の諸政策の影響緩和」論、(g) 「経済統合推進」論」（辻 16 頁—18 頁）がある。

構造基金改革が 1988 年に創設した「共同体イニシアティブ（Community Initiative）」4 つ（①Interreg、②Urban、③Leader、④Equal）で構成されている。

「①Interreg（国境を越える地域間協力のための地域政策）、②Urban（都市と近郊の再生）、③Leader（持続可能な農村開発）、④Equal（労働市場の差別撤廃）」（進化経済(若森：

2005)385 頁,進化経済(篠田：2005)406 頁,辻(2003)156 頁)

Interreg は、今日、第 3 期になる。Interreg I (1990-1993)、Interreg II (1994-1999)、Interreg III (2000-2006)。Interreg の資金源については、一般的に、Interreg Program から最大 50%、「残り 30~50%の範囲でその案件に関わる中央・地方政府、地方自治体が出資する…事業提案者も自己負担することもある。」(伊藤(2003年6月)19 ページ)

Interreg III の資金源について、オランダ・独の協力の場合は、最大 50% (Interreg Program) /最大 30% (オランダ・独大蔵省) /最低 20% (プロジェクト主体組織<地方自治体・中小企業・大学など>) (進化経済(マリティノ：2005)418 ページ) となっている。

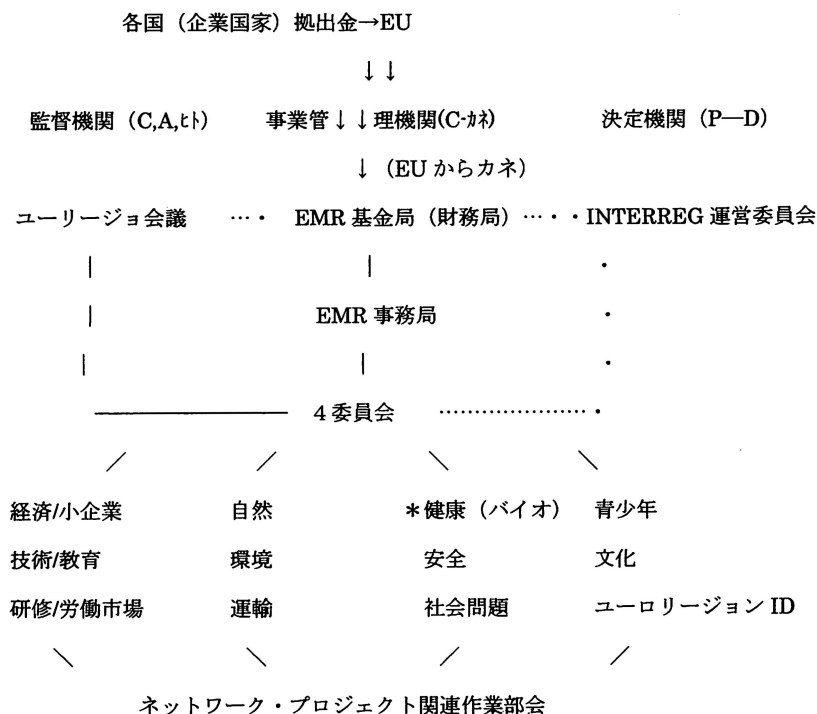
2. EMR—越境と組織/機能

EMR(ユーリージョ・マース-ライン (Euregio Meuse<=Maas>-Rhine))は、大きくは、次の地域、つまり、リージョ・アーヘン(Aachen)<独>—リンボー(Limburg)州<蘭+白耳義>—リエージュ(Liege)州<白耳義>から構成される。「3 国家 (ドイツ—オランダ—ベルギー—国境)・3 言語 (独—蘭—仏語)・3 文化圏・5 リージョン (アーヘン—リンボー—リエージュ—マーストリヒト—ユーペン (白耳義の独言語圏)) をもって、構成される。

2.1 EMR—組織図

EMR の組織図は、次のようなものである。

図 1-2 EMR 組織図



(* 大学<TLO 形成中>・民間に個々のプロジェクトのセンターと臨時任期制職員)

2.2 EMR-経済・歴史・地勢

「人口(=消費者人口)：370 万人,内労働人口(active population)：150 万人以上 (下記失

業率 労働人口(active population) : 150 万人以上は 1998 年) である。労働経済については、以下のような内容である。

人口構造 : (外国人 5.4%) /失業率 5%・失業者 2 万 9 千人,リンボー (白耳義) : 78 万人 (外国人 8.5 アーヘン地域 : 約 125 万人 (外国人 10.7%) /失業率 8.9%・失業者 5 万 7 千人,リンボー (蘭) : 75 万人%) /失業率 6.4%・失業者 3 万 5 千人,リエージュ : 102 万人 (外国人 11.4%) /失業率 12.2%・失業者 6 万人,白耳義の独言語圏 : 7 万人 (外国人 16.7%) /失業率 5.4%・失業者 1 千 6 百人。

EMR の「越境通勤流動」1999 年には、約 3 万 2,000 人 (伊藤 (2003-1) 15 ページ)

面積 : 1 万 km^2 (アーヘンの西を円心にして、 $56 \text{ km} \times 56 \text{ km} \times 3.14$)

半径 300km 圏内主要都市 : ケルン・ボン・フランクフルト・アムステルダム・ブリュッセル。

半径 500km 圏内 : $2/3 \times$ 西ヨーロッパ人口

GDP('97):714 億ユーロ

企業 : 25 万社。企業グループセンター (Company and business centres) : 26

知的集積 : 4 大学 (アーヘン・リンボー・リエージュ・マーストリヒト大学)

10 カレッジ・2 フラウンホーファー物理学研究所・ユーリッヒ研究所・300 の優位な研究所・上質のインフラ。

ヨーロッパ文化の中核 : アーヘン市立劇場・リージョオペラハウス・リンボー公園劇場・アーヘンルードビッヒ工業都市フォーラム・マーストリヒト聖母子博物館・リエージュ現代美術館。美しい自然景観 : ハイキングに最適なアイフェル (ライン川西岸) & アルデンヌ高地・アイフェル国定公園・サイクリングに良いハインズベルク・キャンプや水上スポーツに良いマース川・河川湖水源流 (以上,REGIO AACHEN 作成)」

「歴史 : 1976 年 3/4 月,EMR 設立

1976 年 6 月,リージョ・アーヘン設立

1978 年,リエージュ州<白耳義>が EMR に参加

1986 年,越境実行計画 GAP 同意

1991 年,INTERREG I 計画 (1991-93 年) が実施され始める。

オランダ法を根拠に “the EMR” 資金創立

1992 年 6 月,白耳義の独言語圏が参加

1994—9 年,INTERREG II

1995 年 10 月,越境研究チーム (Arbeitsgemeinschaft Grenzgaenger <cf. 越境労働組合協力組織>) 創立

2000—2006 年,INTERREG III

(2001 年,EMR 再編成<以上,REGIO AACHEN 作成>)

次に,EMR 予算とその INTERREG IIIA(2000—2006 年),総額,約 3,000 万 (29,806,112) ユーロ (約 42 億円) について,節を改めて,解説しておくことにしたい。

3. INTERREG III A プロジェクト

本3では、約50個(49個)、総額28,035,970ユーロ、2005年現在進行中の「採用されたINTERREG III A プロジェクトの概観(Regio Aachen(2004))」を紹介しておきたい。プロジェクトは、EU-国家-州とは別に、越境地域間交流をインフラ・労働・観光・環境・文化・健康の充実・整備を通して活発化し、越境交流地域の経済・文化社会を活性化させようとするものである。第1節で述べたように、EUからの次の予算額のSFに、州政府の援助金が追加される。

本3では、この「採用されたINTERREG III A (独語)」を、第1項で概説し、第2項でその中の「ライフサイエンス」などのを、事例の代表として詳しく解説しておきたい。

3.1 III A プロジェクト予算と内容

プロジェクトは、大きくは優先度で、小さくは越境支援の内容で分類されており、次のようになっている。優先権番号1～5、その分類番号①～③があり、優先権番号では、1：ハードインフラ整備、2：産学技術共同支援、つまり産学(経済と科学技術)連携支援(Foerderung) & 経済的科学技术協働支援(Foerderung)、3：自然的生活環境の保護(Schutz)、4：人的資源の育成と活用(Nutzung)、5：社会統合支援(Foerderung)であり、分類番号①～③については、1—①移民生活改善支援、②越境移動への助成、2—①創業・技術革新支援、②経済的科学技术協働支援 & 2—②観光³(Tourismus：第2方策はこのツーリズム)、3—①環境保護、自然保護、大地保護、②田園空間の拡充、4—①越境労働市場の強化、②人間能力開発・活用、つまり人間形成・教育・生涯教育(Weiterbildung)、5—①社会的公共的(Soziale/gesellschaftliche)統合、②文化的アイデンティティの支援、③健康増進施設(Gesundheitsvorsorgeeinrichtungen)と健康増進組織の適合(Zusammenarbeit)が挙げられている。

.....
³「観光(は)ヨーロッパのGNPの5.5%、900万人の雇用」(千(2004))であり、EMRでもツーリズムによる地域活性が重視されている。INTERREG IIIの越境協力全体でも、このことが伺える。参照：「22 独+ルクセンブルク 同一自然資源【・都市、農村開発：社会、文化、教育、観光施設のネットワーク、経済開発：SMEs支援・観光と文化向上：公社機関の協力・労働マーケット創出と職業訓練・自然環境保護】」「23 D+L」
「24 仏+独 同一文化遺産と言語【・地域競争力の強化：越境空間計画、観光開発、技術移転、SMEs促進・越境雇用マーケット創出・自然資源の保護・社会、文化統合】」「25 独+仏+スイス 地理的、文化的アイデンティティの共有、長い越境関係【・人と機関の越境協力・持続可能な空間開発・経済統合と労働マーケット創出・観光と文化の促進】」(千(2004))

それぞれの大項目の予算は、次の図表3-1のようになっている。

表3-1 優先項目：「採用されたINTERREG III A プロジェクトの概観」

Σ 2 9, 8 0 6, 1 1 2 -ユーロ

補助額 (ユーロ)

①優先権番号1 : ハードインフラ整備<1>~<4>	9 2 2, 0 0 0 -
分類番号1 : 移民生活改善助成 <1>	352,5000-
分類番号2 : 越境移動への助成 <2>~<4>	569,500-
②優先権番号2 : <5>~<18>	1 2, 3 0 0, 3 6 4 -
②-1. 優先権番号2 : 産学 (経済と科学技術) 連携助成 <5>~<12>	8, 6 3 2, 4 0 0 -
分類番号1 : 創業・技術革新支援 <5>~<12>	8,632,400-
②-2. 優先権番号2 : 産学 (経済と科学技術) 連携助成 <13>~<18>	3, 6 6 7, 9 6 4 -
分類番号2 : 観光 <13>~<18>	3,667,964-
③優先権番号3 : 自然的生活環境の保護 <19>~<28>	7, 8 2 8, 4 8 6 -
分類番号1 : 環境保護, 自然保護, 景観保全 <19>~<26>	4,197,761-
分類番号2 : 田園空間の拡充 <27>~<28>	3,630,725-
④優先権番号4 : 人的資源の育成と活用 <29>~<39>	4, 7 7 4, 1 3 0 -
分類番号1 : 越境労働市場の強化 <29>~<31>	2,058,722-
分類番号2 : 人間形成・教育・高等育 (Weiterbildung) <32>~<39>	2,715,408-
⑤優先権番号5 : 社会統合助成<40>~<52>	4, 9 2 0, 0 1 5 -
分類番号1 : 社会的公共的(Soziale/gesellschaftliche)統合 <40>~<42>	982, 127-
分類番号2 : 文化的アイデンティティの研究 <43>~<45>	1,003, 980-
分類番号3 : 健康増進施設と健康増進組織の適合 <46>~<49>	1,695,015-
分類番号4 : 官庁の協働 <50>~<52>	1,238,893-

次に、「採用された INTERREG III A プロジェクトの概観」の内容は、次の 3.2 のようなものである。

3.2 内容：「採用された INTERREG III A プロジェクトの概観」

①優先権 1：ハードインフラ整備 < 1 > ~ < 4 >

分類 1：移民生活改善助成 < 1 >

< 1 > キャンパス ヨーロッパ (Campus Europe)

本プロジェクトは、今までの経験をこれからの越境職種の斡旋に活かしつつ、企業誘致 (Unternehmensansiedlungen) の条件的な可能性をより効果的に喧伝すること、このことを企図するものである。一連の不明な構造上・手続き上の問題、つまり従来の施策が現地雇用の有益性の阻害要因となることが確認された問題の解決策を練る、官庁の研究チーム/中央作業委員会の提案を引き出すことを目的とするものである。このような意味で、仮想建設プロジェクトをもとにして、どのようなやり方が最適なのかを調査する。あらゆる建設法的・環境法的な実験、つまりドイツ・オランダの国境に建設する建造物に関わるドイツ・オランダ法制定のための実験は、仮説的な建設計画を打ち立て、それに照らし合わせて、行われるべきである。当該建造提案は、ヘーレンとアーヘンで同時に提出され、同意に至った。これらの作業を通して、詳細で実行可能性のある手順の見取り図が描かれるべきである。すなわち、職を求め越境して移住しようとする人々に対して、両国にとって影響力の強い措置と交渉を行うための見取り図が描かれるべきである。3 5 2, 5 0 0-

分類 2：越境移動への助成 < 2 > ~ < 4 >

< 2 > アイフェル山地の交通計画

本プロジェクトでは、越境移動研究を通して、次のような可能性、つまりアイフェルとその周辺地域とを、広範囲に以前より効率的に交通網で連結する可能性を追求する。その連結によって、道路・鉄道での越境貨物運輸・旅客運輸が実現する。このことに関わる現況は、次の想定をしてみれば一目瞭然である。すなわち、従来の道路・鉄道運輸に比べてみて、東西コリダー (回廊) と幅広く繋がる、効率的な南北縦断の道路・鉄道運輸網を建設する、という想定、従来の道路・鉄道運輸の赤字経営に比べてみて、この地域のこのような事業計画が成功するという想定が、それである。企画している研究では、運輸供給能力と需要量が調査され、交通容量分析を企図し、越境移動計画を立てている。それによって、公共の運輸供給能力も民間の個人のそれも把握できる。建設可能な交通コリダーの展開によって、新しい開拓地や保全すべき自然資源の利点は、特に配慮することになっている。また、越境移動計画は、将来の鉄道・道路の敷設網に関わる環境影響評価も実施する。1 3 0, 0 0 0-

< 3 > 重層的な交通 (Goederrenvervoer) モニタリング

将来 10 年間に起こるであろう、あらゆる可能性を想定すれば分かるように、貨物運輸は、次のような EMR に関連づけられる傾向を強めるであろう。貨物運輸の展開を効率的なものにし、紛争を克服するために、「重層的な交通 (Goederrenvervoer) モニタリング」プロジェクトでは、貨物運輸の資産額を把握しなければならない。二つの局面で、将来の必要性についての段取りを吟味、検討するために、そのモニタリングによって得られるダイナミックなデータベースのデータを予測シミュレーション法で役に立てることができる。そうすることは、重大で新しい挑戦であり、国境を越えて収集されたデータの統一を図るものとなる。総じて、このような計画は、ユーリージョの管内の貨物運輸と他の地域の貨物運輸を最適に結びつけることになる。それに加えて、インフラと交通容量の効率的利用は、鉄道と河川の貨物輸送をも増強するものである。このような関連性をもって、何よりも先ず、物流交差点、インフラ網、多モーダルな交通センターが試運転され、近代化されることになる。越境し調整される貨物輸送システムの拡充を通して、これらの交通によって緊密に結びつけられる地域 (die Flaeche) は、より親密になる (miminimieren)。2 2 0, 0 0 0-

< 4 > 公共交通機関 (OePNV)

将来の広範囲に伸びる移動性は、欧州規模の公共交通機関に対する優先的投資による成果である。特に、EMR は越境を配慮した移動容量の保障・拡張を必要とする地域である。公共交通機関は、共同体的な経済圏・労働圏の創出のためにも、自由時間・文化・ツーリズムの分野の交流を促進するためにも、戦略的に効率的なものにならなければならない。このように迫られている本査定 (Ansatz) は、越境たとえばユーリージョの、いままだかつて無かった近未来交通計画に多大な貢献をするものである。公共交通機関の運営組織 (プラットフォーム=官庁、管理組織、主務官庁) と民間公共交通の作業グループとの間の提携 (Kooperation) に基づいて、この近未来交通計画は、越境して調整される公共交通機関敷設へ向けた、中央の拘束力を持つ開発計画書 (Entwicklungsdokument) としての意義も持つ。このプロジェクトの枠組み (Rahmen) で EMR は、公共交通機関を調整し、その機関に対するあらゆる出資者を結びつける結節点となり、従来の計画を転換する運営センターとなる。2 1 9, 5 0 0-

②-1 産学 (経済と科学技術) 連携助成 < 5 > ~ < 1 2 >

分類1：創業・技術革新支援<5>～<12>

<5>ユーロリージョン 2008-

定期的に開催されるコンテスト (Wettbewerb) 「ノルトラインヴェストファーレン州のリージョナル文化・自然圏コンテスト」の際に、同州政府は、コンテストに参加した地域に、その発展のためになる重要な機会を提供することになる。アーヘン市とアーヘン圏、デュッセルドルフ・ユースキルヘン・ハインスブルグ圏、ベルギーのドイツ語共同体である公園都市のリムブルグ (Limburg)、同様にマーストリヒトとメルゲランド (Mergelland) は、共にこのコンテストに参加し、それとともに発展の要因となる越境協働の可能性を強調することを決議した (entschliesen)。「ユーリージョ 2008」を支える、2001年10月に申請された支援助成は、同名のインターレグ・プロジェクトに貢献するものである。2002年初めまでに、ノルトラインヴェストファーレン州は、「ユーリージョ 2008」の理念をコンテスト参加者に明示した。その理念は、プロジェクトの青写真に沿って、その後毎年、骨子をはっきりし、越境を配慮しようとする方針が、そのコンテストで、「異文化接触 (浮気: FremdGehen)」「都市発見 (StadtFinden)」「国境理解 (GrenzWissen)」を主要テーマにして、発議されるべきものである。その目標は、EU の他の地域にもお手本となるようなユーリージョの生活-移住圏を創ることにある。152, 590-

<6>ユーリージョナル起業プラットフォーム (Betrijvenplatform)

本プロジェクトの枠組みで、EMR の全ての商工委員会がお互いに連携する (kooperieren)。長期間、ユーリージョが単一の国際競争力を持つ経済圏と成るためには、ユーリージョに定着している企業同士の連携が進むようなインセンティブが必要になる。当該の調査によれば、地域間の企業連携の欠如が、経済成長と職場づくりの芽を摘んでいる。この連携の芽を伸ばすためには、まずもって迅速に、従来の情報の非対称性を克服し除かなければならない。ここでは、ユーリージョの企業プラットフォーム・受け皿 (Unternehmensplattform) が、一連の具体的な措置を提供することになる。特に、最新のITを駆使して、経済インフラや取引の接触や企業の在庫に関わる現実的問題 (Status Quo) が認識され、透明になるようにする措置を提供する。見本市、会合、情報関連の催し物は、このような積極的な情報・通信攻勢をかける一環であり、様々の印刷媒体・デジタル媒体を通して、様々の部門の企業を特殊なテーマを持った部門と連結する。また、当該ユーリージョにおける企業のデータバンクの拡張は、本プロジェクトをあげて志向しているものである。

<7>ライフサイエンス

EMR は、ご存知のように、総じて、生科学の分野における、高度な研究文化と企業文化を有している (verfugen)。いずれにしても、世論調査 (Umfrage) でも、越境協力の分野での欠点が明らかになり、成長機会を奪ったままになっていることも明らかになっている。その上、研究設備と企画は、この種の協働を保障したい、という願いを叶えさせる。このような意味で、ユーリージョの経済的な支援者は、バイオ技術、薬剤技術、医薬、バイオ科学 (生化学) の分野における、大学 (Hochschule:例えばアーヘン工科大学, Buechs 教授コメント)、研究機関、企業とリスクを伴うが出資する者を引き合わせる契機になる。これらの活動は、共同体的なデータバンク、現在進行中で現実化しつつあるデータバンクの基盤になるはずである。インターネット玄関 (Portal) が統一されれば、その場でユーリージョの応募者、国際的な応募者は接触することができ、情報交換することができる。さらに、プロジェクトの枠組みで、eメールを通じて送信される定期的なニュースレターや専門領域に関する公共の情報の公開や交流の催し、つまりこのような部門の様々な立て役者が集まる催しが開催される。総じて、このプロジェクトは、長期的に、質の高度な専門能力を培う新しい職場を創造することに役立つことになるであろう。

<8>通信-マルチメディア (C-MD) プロジェクトセンター & サービスセンター

デジタル通信-マルチメディアの分野におけるそれぞれのサービス業は、それぞれの高度に成長する需要を示す成長経済分野に属す。ユーロリージョのこのような将来性のある分野の成長の可能性を計測するために、またユーロリージョが、その需要に対応した供給先 (Markt) になるためには、プロジェクトに企画している大学は、大学間でいまや数年間すでに試行されてきた協働作業を強め、共同で管理され、必要になっている施設を新設したいと思っている。マーストリヒトに本拠地を置いて (Angesiedelt in Maastricht)、本「プロジェクト・サービスセンターC-MD」は、研究開発作業を行い、優秀企業の認定制度を発展させ、大卒後の研究分野を提供するものである。その提供のために、ユーロリージョのデジタルコミュニケーションネットワークとマルチメディアを繋ぐネットワークの構築が企画されている。この企図に沿って、その中核には、情報技術、通信技術、経営学、オーディオ・ビデオ技術、コミュニケーションとデザイン (Gestaltung 構造) のような、専門領域に広がる (fachuebergreifend) 高度な学術を統合が行われることになる。ユーロリージョの企業・機関向けに、本プロジェクトセンター & サービスセンターは、それぞれの企業に高額な初期投資をさせることなく、上のような可能性と最新のマルチメディア技術を提供することを約束するものである (bieten)。ユ-ロ 746, 225-

< 9 > Eu-ビジネス・エンジェル・ネットワーク (BAN)

ビジネス・エンジェル (Bas) は、新興の技術革新的な企業に向けて、予め確固としたその企業の成長を評定しているわけでもないのに、リスク覚悟で(risikotragend)投資する個人投資である。Bas は、出資企業のために、起業の経営面での世話・助言を真剣に行う。BAs は、一般的に EU の推薦にしたがって、ユーロリージョ地域全般に、Bas ネットワーク (Eu-ビジネス・エンジェル・ネットワーク) を張り巡らせ、そのネットワークによって、資金を求めている新興企業と BA ハイリスク投資企業を結びつける。BAs は、一面、びったり合う投資家を探しつつ、制度的に有望なプロジェクトについて照会し、同時に企業創設者と適格とみなされた企業を支援する。その上、プロジェクトは、ユーロリージョの活発な Bas の数を増やす手助けになる。ネットワークとネットワークの展開の越境的広がり、国際化に貢献し、かつ国際化に伴う国際的な競争力、例えば企業のグローバルな競争力を強化することにも貢献することになる。このような意味で、ユーロリージョの2つの国から出てくる投資家と企業とを集中させるよう企図する。その企図とは、経済的な越境の取引と隣接地域に関わる知識とを連結させるものである。

ユーロ 460, 983-

2 11

< 10 >

マースーライン三角形

プロジェクトの主題は、経済的な現状 (Wirtschaftsstandort) の EMR のために新規で統一されたコミュニケーションコンセプトの創造・立案である。「マースーライン三角形」の名の下に、新規投資家の募集と誘致を制度化され、またより強力に促進されることになる。この目的のために、ユーロリージョの5地区の経済振興協会は研究チームを編成し、その誘致の勧誘、例えばその広報活動に携わる協会要員がその研究チーム内に集まる。その研究チームは、EMR の当該の現状の利益のために、一般的な部門や特殊な部門や細分化市場を外部機関と連結し、その連結を通して経済振興協会の現在のマーケティングを支援することになる。このような支援は、主として EMR の外のターゲットグループ、つまり企業・当該コンサルタント・上の一般的な部門や特殊な部門のネットワーク・それらの部門の連合向けに設定されている。個別の提示活動 (Praesentations-Aktivitaeten) の内の多数のものと共に、その活動に即して、投資家向けのインターネットのデータバンクや見本市や展示会を知らせる e メールニュースレター、これらのデータバンクの創設が予め織り込まれている。そのデータバンクは、関係する外部との接触を通して総括され、評価される。提示活動において、マースーライン三角形は、EMR の部門関連のプラットフォーム、例えばプロジェクトの「ライフサイエンス」と親密に協力しあう。ユーロ 235, 103-

< 11 > 有機的 LED

本プロジェクトは、EMR が、市場性のある未来技術のグローバル競争上、有利なスタートラインにつけるようにする、という目的を持つ。具体的に、近未来に、個人の住宅のみならず企業や官公庁の建物においても、今までの光源・照明源を不用にすることになる有機的 LED (OLEDs) の研究は、重要である。OLEDs は、劇的に削減されるエネルギー消費において、著しい効率性の向上をもたらし、この点で気候変動の悪化させる有害物質の削減にも寄与することになる。このプロジェクトのセンターは、アーヘン工科大学 (RWTH アーヘン) とリエージュ大学との親密な協力をもって運営されている。アーヘン工科大学は、その OLEDs に関わる半導体技術と光電子の領域に戦略的な研究を吹き込むことになり、リエージュ大学は OLEDs の容量に関連して、必要な構成要素の合成と機能のさせ方を導入することになる。同様に、OLED プールを通して、上のような技術分野で活動する諸企業が結束する。企画されたユーロリージョの OLED のネットワークの構築に当たっては、何よりも、利害関係のある企業・大学・研究機関が本プロジェクトの経過・進捗について情報交換し合う定期的な作業部会がその準備をすることになる。

< 12 > 戦略的技術革新

バイオ・農業経営・生活手段・ロジスティクス・電子データ処理・ツーリズム関連企業が取り上げられる。
.....

< 38 > キャンパス自動車

このプロジェクトは、ユーリージョの自動車産業の研究開発のみならず新たな教育訓練の体制を築くために、ユーリージョがスペインのフランコ・シャンゼリーゼ (Spa-Francoorchamps) のグランプリ (Rennstrecke: 走行距離) に参加する上で有利な立場にあることを利用するものである。それとともに、アーヘンの大学、リューティヒの大学、ゲンクの大学、ロンメル大学のプロジェクト参画者が、特に最新の技術を取り入れ、そのことによって制度的に自動車産業の従業員の資質的能力が增强されるような教育、広範囲な教育大系を企画するものである。このような授業・教育は、機械工であり手に技術を持つ訓練生でもある学生やエンジニアを鍛え上げることになる。研究開発の分野では、内燃機関や伝導装置の開発を行い、新しい素材・部品 (繊維の結合材、セラミック) の研究開発・実験を行い、金属と特殊合金加工を行い、空気力学、デザイン、車内電気のみならず革新的な原動機の開発を行うものである。その走行距離は、いわば現場で必要な実践を積む上で有意義である。その上、さらに本プロジェクトは、現代の一連の自動車技術を、より開かれた公共性を持ったものにするために、伝統的なスポーツが行われるユーリージョの場所の魅力を活かすものである。

以上、INTERREG IIIA の代表事例を抜粋した。この内、ライフサイエンスについて、上の「< 9 > ライフサイエンス」の一大拠点は、アーヘン工科大学に置かれている。このライフサイエンスの分野には、INTERREG IIIA プログラムから3カ年、170万ユーロが助成される。企業300超、研究グループ130以上、大学 (アーヘン工科大学・マーストリヒト大学・リージュ大学) とそのTLO (技術移転機関)、産業支援機関 (オランダのLIOF、東ベルギーのWFG、アーヘン地域のAGIT、マーストリヒト市)、Meme+Live---産業クラスターが形成されている。

また、自動車キャンパスについて、上の「< 38 > キャンパス自動車」の一大拠点は、アーヘン工科大学に置かれている。

結

本章では、地球環境保全型・持続型経済社会を維持するための政策とそのプロジェクトマネジメントのガバナンスとそのデミングサイクル、P-D-C-A (立案—実施運用—記録監査—見直し) の民主的ガバナンスの在り方を視点に、EMR を考察した。日本もアメリカ一辺倒の市場原理主義的なグローバリゼーションに陥ることなく、グローバリゼーションとEU 共同体、EU と加盟国、地域と共同体の協調を図っているグリーン地域政策に多くを学ぶべきである。

【参照文献】

Commission of the European Communities (2001), "European Governance: A White Paper." COM(2001)428 final, Brussels, 25 July.

伊藤貴啓 (2003-1) 「ドイツ・オランダ・ベルギー国境地帯における越境地域連携の展開とその構造: Euregio Maas-Rhein を事例として」愛知教育大学『地理学報告』第96巻, 6月。

伊藤貴啓 (2003-2) 「バーゼル国境地域における越境地域連携の展開とその構造」愛知教育大学『地理学報告』第97巻, 12月。

Martino D. (2003) "Internationalization of Industrial Districts and Governance in Northern Italy." 11/January (Venue: Chuo Uni. Tokyo).

Martino D. (2004) 「鉄のカーテンから欧州連合の中心地へ」羽衣国際大学産業社会学会『産業・社会・人間』No.4.

長岡延孝 (2003) 「2002年度北欧予備調査報告 (2003年2月23日~3月6日)」於: 市ヶ谷・

中央大学.

西村克己(2002)『よくわかるプロジェクトマネジメント』日本実業出版社.

Regio Aachen(2004)“Uebersicht der genehmigten U(NTERREG III-A Project”.

齋藤實男(2004)「EUの地域産業政策ノート」『九州産業大学商経論叢』第45巻第2号,12月.

千相哲(2004)「EUにおける国境地域開発と観光」『九州産業大学商経論叢』第44巻第3号,1月.

進化経済学会(2005)『進化経済学論集第9集』進化経済学会,3月.

田中宏(2005)『EU加盟と移行の経済学』ミネルヴァ書房.

田中友義/久保広正(2004)『ヨーロッパ経済論』ミネルヴァ書房.

辻悟一(2003)『EUの地域政策』世界思想社.

【参照サイト】

http://www.nrw.co.jp/nrw_news/nrwnewsno.8.htm[2004/02/26]